

# 二次感染を防ごう

## 大船渡 医療者向け研修会



研修会で綿棒を手に検体採取の練習をする気仙地域の医師

参加した。

県立大船渡病院の感染管理認定看護師らが講師を務めた。手袋やガウンを外す際の注意点として「ウイルスが付いているのは外側。内側のみを触るように外して」とアドバイスした。

鼻に綿棒を入れて検体を採取する作業では「くしゃみの恐れがあり、患者の正面に立たないで」と呼び掛けた。

センターでは医師や看護師が交代で待機し、患者の診察、検体採取をする。気仙医師会の滝田有会長は「自身も感染しないようにすることが重要。十分に準備した上で検査に臨みたい」と話した。

9日も研修会を開く。

岩手県大船渡保健所は8日、新型コロナウイルスの二次感染防止策などを学ぶ医療関係者向けの研修会を大船渡市の県大船渡地区合

同庁舎で開いた。同地区では7月末に「地域外来・PCRセンター」を開設する予定で、業務に携わる地元医師や看護師ら約40人が